

06/Nov.2012

8 : 20 朝食

10 : 20 街歩きに出る。①→⑤の順で回遊することとする。

①wat inpeng (インペグ) ランドマークになるほどのよく知られたワット (寺院) のようで、宿泊ホテルに隣接。ホテルの案内書にはタクシーの運転手にはインペグの近くのホテルと伝えると確実に運んでくれる。ツクツクには悪質運転手がいるので注意の事などと懇切丁寧に書かれていた。

②銀行で K に両替し、Lao Airlines 社屋でビエンチャン→ルアンパバーン、ウドムサイ→ビエンチャンの航空券を確保

③Lao-ITECC (産業見本市会場に使われる巨大な建物、但し、2階にはボーリング場や映画館、飲食の出来る店やスーパーマーケットがあり、市民のマーケットとしての機能である。一階は広いワンフロアになっており、常設の店がテナントとして入っている。タイや中国製品が所狭しと立て込んでいる。このかなりのスペースを使って、Lao Handicraft Festival 2012 (ラオス工芸博) が11月1日～7日まで開催されている。これを見学・買い物。

④ワットシーサケート (Wat Sisaket)

⑤ワットシームアン (Wat simuangng)



ホテル裏窓の朝の風景。遠くメコン沿いに政府関連施設の屋根が望める



ホテルトイレ事情・良好



朝食。asianstyle/europeanstyle から選択可能。吹き抜けの青天井のもと。ヨーグルト、ブレッドアンドバター、フルーツ、ラオコーヒーの european を選択。

### ワットインペン (Wat inpeng)





↑ワットインパンを出て、メコン河岸方面へ歩く。ゲストハウスなどが立ち並び、何故かコシヒカリを扱う事業所が。向こうのファーム通りを横切ると、そこはメコン河畔



↑メコンは乾季のため広大な河川敷が広がっている。ラオス国旗が翻る。ASEM のデコレーション。遠くに見える高い建物はASEM に合わせて建設されたホテルらしい。



↑メコンに沿うファーム通りにはASEMの横断幕が。第13回アジアヨーロッパビジネスフォーラム参加団を暖かく歓迎しますとの文言。



↑Lao Air 直営のチケット扱い所。メコン河畔のファーム通り近く。ラオス銀行真向かいで便利。ここでも、お得意さま満足度調査のアンケートが。チケット発行処理やスタッフのサービスなどが5段階評価でアンケート調査されている。全て良好として投函しておいた。国際社会の一員たろうとする努力が見られる。

11月07日 ビエンチャン (vientiane) →ルアンパバーン (luang prabang) 11:35発12:20着

11月17日 ウドムサイ (oudomxay) →ビエンチャン (vientiane) 11:50発12:40着

のチケットをゲット。



←西洋風のサンドウィッチを食べるカフェで一休み。こうした店では殆ど日本と変わらない価格水準。ラオコーヒーとサンドウィッチで450円程度。2階の席でマンウォッチング。丁度、昼休み時間で勤め人が昼食をとる風景に出くわす。ツーリストの姿も多くみられる。Green discovery と称するトレッキングなどのグリーンツーリズムの旅行社があり、外国人ツーリストの姿が見られる。



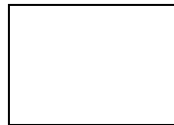


←ASEM の公式会議が終了し、参加者が観光に繰り出し、けたたましい警笛とともにパトカーに護衛された高級外車が通る。街は銃で武装した警察官であふれる。

Lao-Itecc での工芸博



←2階から ITECC の店舗フロアを見る。各ブースは豊富なタイや中国、ベトナム製品がワンサカと並ぶ。



←動画

火曜日平日の午後である。人出も多く、活気に満ちている。経済活動は大きく進展しているやに見える。

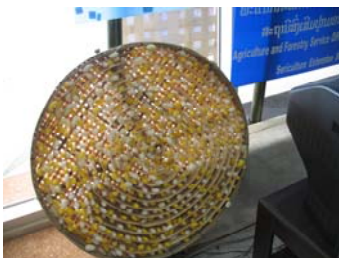
工芸博の様様



←黄金色の繭がある。製糸すると、少し黄色を帯びる絹糸になる。この活用は面白い。



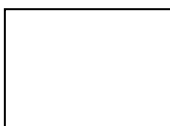
←ろうけつ染の実演



←カイコの上簇の様子



←竹細工



←動画

ろうけつ染の実演



↑ラオスの地域工芸産物は何と言っても「織物」である。村々で農村婦人の手仕事として、生活必需品、祭司具、民族固有の装束が織られていた（今日に於いても）。綿花の栽培、養蚕から製糸、染色、織、縫製まで一貫して農家の生業として行われるものであった。これらの素材を生かしてデザイン、新規製品の開発に染織をアジアニストに味付けして商品化を図り、市場経済に食い込む努力がなされている。ここに外国の小資本やテキスタイル商人が入り込んでいるといった状況である。生活衣に於いては、中国製の化繊ものが手仕事にとってかわりつつある。



↑チーク材を使った家具の製造、こういった彫刻なども、しきりに造られているようだ。家具類は建築ブームと相まって需要はあると思われる。中々の好ましい質のものが多い。

興味深い展示があったので紹介します。



↑このブレスレットは爆弾であった。ブレスレットをつくる。戦争ではない！  
 我々のブレスレットは秘密戦争の期間に（アメリカが第一次インドシナ戦争に介入したことが、当初はひた隠しにされていたことを指す。秘密基地はラオスにあった）私たちの地域に落とされた爆弾や軍用機の一部であったアルミニウムから造られている。戦争終結後、誰かが我々の生命・人生を破壊した爆弾で何かすることを教えてくれた。我々は爆弾からスプーンを作った。最近では、爆弾から美しいブレスレットを作り始めた。我々を貧困から救ってくれる新しい意味を爆弾に見出している。  
 あなたの支援に感謝します。Naphia の村人たち。ブレスレットを買って下さい。ブレスレットの販売から得られる金額は直接これを作った人たちに渡ります。そして地域資金を通じて村の発展に貢献します。戦争を訪れるツアーに参加してください。ブレスレットの村人より。と書かれている。



←JICA が活動している。JICA のパイロットプロジェクトと称して、一村一品運動を展開しているという。黒米で米粉うどんを作った。焼酎を開発した。木工で新商品を作った。などと言う類のことである。これがJICAの活動かと思うと何かさびしくなる。ODAの一貫である。批判はアンタツチャブルなのだろうか？このことについては、何か現地のシチュエーションとミスマッチで、耳にする JICA 職員の優遇ぶりと一緒に、わだかまりが棄てきれない。



ラオスの英字紙「ビエンチャンタイムス」 Vientiane Times に工芸博関連記事が掲載されていたので次のページで紹介しておきます。

以後、この印象記ではラオス滞在中の新聞記事を興味の思いつくままに紹介することとします。

**【新聞事情】**

地元発行誌は英字誌のビエンチャンタイムスとラオス語の新聞があります。日本の新聞は高級ホテルでは揃えられているようですが、リーズナブルな価格帯のホテルやゲストハウスでは手に入りません。英字誌はまちで買うと10000K（100円）で入手出来ますが、宿泊施設からの持ち出しで手に入れるのを推奨します。社屋はビエンチャン市内の繁華街にあります。

英字誌ビエンチャンタイムス（Vientiane Times）について

僅かの滞在期間中の感想ですが・・・5年前のラオス訪問時と比較して大きく、紙面内容が変わってきているように思えます。かつては、シッカリしたブレのない編集方針があったかに思われます。

ラオスの実情を踏まえ、厳しい中で、起業しようとする人々の活動を鼓舞するという視点でした。

例えば、有機栽培による商品生産農業に取り組む婦人のグループやアメリカに亡命したモン族の息子たち若者のラオスでの音楽活動や不発弾除去に取り組むNPOの活動などのルポ記事が見られたものです。英字誌であることから、ラオスにおける起業チャンスの情報提供と言う側面があったにしても・・・近年では、「政府の部局の次長がビエンチャンタイムスの記者にこのように語った」などの政府及び関連機関の記者リリースがそのまま掲載されているばかりと言った内容です。裏付けのルポルタージュ記事が見られません。

マーケット情報、ビジネス欄、交通事故情報、他誌のトピックの紹介、イベント紹介、その他にはスポーツ芸能面が増えている。イブラヒモビッチやファンペルシ、メッシの活躍、レデイガガまで登場します。他は韓国企業、ヨーロッパ系企業、時に日本企業の宣伝広告や公的機関などの欠員情報・求人広告などで占められています。

諸外国のラオスへの協力や支援に関する記事が事のほか、多いのが目につきます。伝統的な地域の文化、行事、観光なども多く取り上げられ、この点では好感です。ツーリズム振興に有効。





Shoppers check out rattan products on display at Lao-ITECC.

--Photo Bounfaeng

## Exhibition opens visitors' eyes, artisans' markets

**Ounkham Pimmata**

A one week display of Lao artisans' colourful and skilled handicrafts at the Lao-ITECC in Vientiane will end today.

The 11th Lao Handicraft Festival gives visitors the chance to not only stroll among more than 200 booths displaying a wide variety of colourful products for sale, but also an understanding of the hard work and special craftsmanship that go into each product.

One visitor, Ms Chantry, said many of the items on display gave her an urge to redecorate her home, as well as a better understanding of the need to support Lao-made products to improve the

artisans' livelihoods.

The handicrafts on display were a mix of both the modern and traditional.

The exhibition attracts artisans from across the country, raising awareness of their special skills and giving them the chance to sell their wares.

Many of the goods are textiles made from silk and cotton. Non-timber forest products made from rattan, bamboo and other plants are also on display.

Also up for sale are attractive carved wooden items, silverware, jewellery, pottery, and food and agricultural products.

Visitors can learn how the various provinces make

their handicrafts using locally sourced materials, as well as how recycled wood and metal can be transformed into decorative items.

Savannakhet Pottery representative, Mr Somphong Khanvilay, said the exhibition is an opportunity for artisans to look for new markets in Vientiane and overseas.

He explained how displaying his products at the exhibition is as much a market survey as it is an opportunity for him to talk with other artisans and celebrate Laos' cultural heritage.

The event was organised by the Lao Handicraft Association, which operates under the Lao National Chamber of Commerce and Industry.

### 【拙訳】

展覧会は訪問者の目を見開かせる。熟練工のマーケットである。

ビエンチャンのITEECにおける、ラオスの熟練工たちのカラフルな熟練した手工芸品の一週間にわたる展覧会が本日終了する。ラオスITEECにおける第11回目のラオス手工芸品フェスティバルは、訪れる者に、単に200ブースを散策する機会になったばかりでなく、販売するために展示されているバラエティに富んだ生産品に込められた困難な仕事振りと職人魂にたいする理解を深める機会になったものと思われる。或る来場者 Ms Chantryさんは次のように話している。「展示されている品物の多くは自分の家を飾り直さなければと思わせるものであった。同時に、これら熟練工の暮らし向きをよくするためにも、ラオスの製品を支援する必要があることに一層理解が深まった。」

展示されている手工芸品は近代と伝統の融合である。この展覧会はラオス国中の熟練工をひきつけるものである。彼らの特別な技術に対する認識を呼び起こし、彼らの製品を販売する機会になるものである。製品の多くは絹やコットンのテキスタイルである。非木質系の製品、籐や竹やその他の植物でできたものも、また出展されている。木の彫刻や銀製品、ジュエリー、陶器、農産物も売りに出され、魅力あるものである。

来場者はいろんな地域の地域素材を使ってこれらの製品がどのように造られるのかを学ぶことが出来る。また同時に、木材や金属がどのようにリサイクルされて装飾品になるのかを学ぶいい機会になっている。サバナケット地域から陶器を出展してる Mr Khanvilayさんは次のように話している。「この展覧会は熟練工にとってビエンチャンや国外の新しい市場を見出していくいい機会になっている。」彼は、こう説明している。「自分の製品をどういうふうにディスプレイするかは市場の調査になるし、他の出品者と話を交わし、ラオス伝統文化を再認識する機会になっている」このイベントはラオス商業産業会議所のもとで活動するラオス手工芸協会によって計画され実施されている。



ワット シーサケート Wat Sisaket

案内書によると次のごとくなる。

建立は1815年。たび重なるシヤムの侵攻に耐えて原形を留めている。戦乱、フランスによる植民地支配に起因する損傷が見られる。混乱の歴史が伺える。本堂は回廊によって囲まれ、回廊は無数の仏像が安置され、正面左右には仏塔（タート）が立ち、ラオス仏教徒の巡礼の地「タートルアン」に似た様式を示している。博物館としての扱いで入場料を徴収される。



←風格ある佇まいの本堂。画像では一部欠落しているが、屋根の美しさは格別。壁の彫刻は素晴らしい。内部は写真撮影不可。古い壁画も美しいものである。これを取り囲んで回廊が巡らされている。

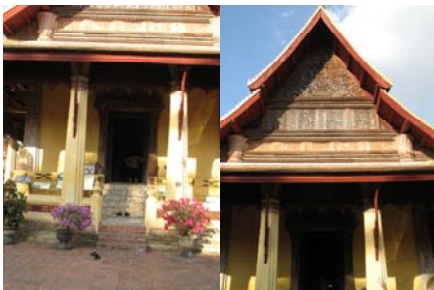


←エントランス。回廊の一部になっている。重厚な雰囲気。ここで入場料。貴重なものとして大切に保存する意思が伺える。



←仏堂（本堂）を左に、右の回廊を見る。これも重厚が雰囲気。この中に無数の仏像が配置される。屋根の向こうは隣接のワット。

無数の仏像→  
↓ 夫々、表情が異なる。



↑ 仏堂エントランス。美しい彫刻が。



← ↑ 文言が彫りこまれている。ラオス文字。方角を示す干支のようにも見える。



←道路に面した駐車スペース。ここに車を停めて見学することになる。本日はASEM参加者の要人が来訪するとのことで、駐車禁止。この後、けたたましい警笛でパトカーに先導されて東ヨーロッパの要人が現れた。



←隣接するワット。ここにも例の紅い花木が。何やら、拡声器を使って式典が行われていた。寄進者の浄財によってワットを建設するようだ。寄進者を讃える式典という。

式典の様。動画→



### ワットシームアン Wat Simuang

案内書によると次のようになる。

1560年、ピエンチャンに遷都してきたセーターテイラート王が1563年に寺院を建立するため、土台の穴を掘っていたところ大きな石が出土した。この石を綱で結って引き出そうとしても、ピクともしない。それを見ていたシーと言う名前の若い妊婦が人身御供となって穴に飛び込んだところ、綱が切れて穴の中に落ちた。その伝説から「シーの町（ムアン）」と呼ばれるようになったと言われる。その伝説は今日でも信じられていると言われ、市内の寺院でも最も多くの参拝者が訪れるそうだ。伝説の成り立ちから、多くの女性たちが祈願に訪れると言われる。仏堂は1828年の戦乱で破壊され1915年に再建されたものようだ。この日もバイクの新車をもちこんで交通安全祈願に多くが訪れていた。ここでは入場料金は徴収されない。他に収入があるのだろう。



←女性に係る伝説由来のワットと言われるからか、屋根の形状もシンプルで、何となく優美な姿に感じられる。



↑美しい彫刻。



優美なエントランスの形状↑

↓仏堂内部。祈りを捧げる市民



仏像は美しいエメラルド色↓



↓動画

新車のバイクに交通安全祈願。祈願を受ける者は白い紐で外のバイクと繋がっている。





歩き疲れて、今夜の夕食はラオス風焼き肉とする



↑メコンに沿った店。  
ファミリー客が2~3組。  
ここにはツアーリストはいない。



↑ジンギスカン鍋風の容器。  
周辺のくぼみが深く。ここで野菜をスープで煮るようになる。ピアラオをしこたま飲んで一人450円。帽子の部分で肉を焼く。炭火である。



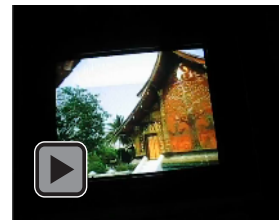
↑夜のメコン。  
対岸の明かりはタイ。

ASEM(アジアヨーロッパ会議)

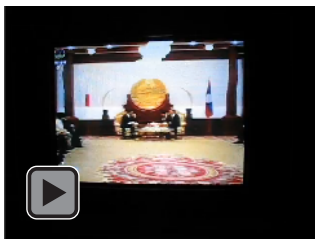
今日もまちは武装警官であふれる。  
ラオス国营放送のASEM 報道振りをホテルのテレビからお目にかけてみましょう。一日中関連番組である。



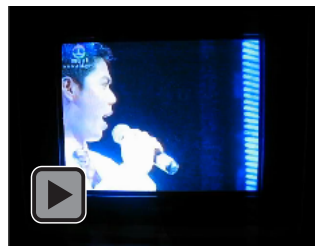
↑動画  
ASEM のロゴ。平和の友達。  
繁栄のパートナーの文字。



↑動画  
ASEM に合わせて、  
VisitLaos2012 の観光キャンペーンが展開されている。



↑動画  
野田首相との会談



↑動画  
歓迎レセプションの様子。ASEM の歌まで創られていたようで、「三波はるお」のような国民的歌手が朗々と歌っていた。  
バックに映示されている映像に注目。フランス植民地主義者との戦闘、インドシナ・ベトナム戦争における人民軍の進軍振りが記録フィルムで表示されている。こうした苦難の歴史を踏まえて今日の改革開放路線に舵を切り、国際会議のホスト国を務めるまでに進展しているラオスを示しているようだ。この道は後戻りできない。  
他に若い歌手がネイティブ同様の英語でポピュラーを歌っていた。  
ベトナム戦争終結後、アメリカに渡ったモン族の子息たちの音楽活動がもたれられない。また、ラオス国民を構成する多部族の融合を目指す舞台構成があったのも印象的である。時々大々しなる招待者のテーブルは殆ど中国のデレグレーションであった。「温家宝」の姿をイヤと言うほど見せられた。中国はこのASEMに間に合わせるべく、コンベンション施設を援助で建設した。巨大な建築物である。



# Chinese premier arrives in Laos for official visit, ASEM

Times Reporters

Chinese Prime Minister Wen Jiabao arrived in Vientiane yesterday for an official visit to Laos and to attend the 9th Asia-Europe Meeting (ASEM 9) Summit today and tomorrow.

Prime Minister Wen's official visit to Laos comes after an invitation from his Lao counterpart Thongsing Thammavong.

Mr Thongsing and high-ranking Lao officials welcomed Mr Wen with an official ceremony upon his arrival.

Mr Wen will call on President Choummaly Sayasone and attend bilateral meetings with Mr Thongsing, the Chinese Ambassador to

Chinese premier arrives...

Laos, Ms Bu Jianguo, told reporters last week.

The Lao and Chinese prime ministers will exchange views on strengthening their comprehensive cooperation partnership, and discuss issues of mutual interest.

Both will witness the signing of several agreements, including some relating to economic cooperation, the ambassador said.

Today, the two prime ministers will attend the handover ceremony of the Chinese funded US\$72 million National Convention Centre where the ASEM Summit is taking place. Later, they will attend the Laos-China Rail Project groundbreaking

CONTINUED PAGE 3

FROM PAGE 1



Prime Minister Thongsing Thammavong (centre) welcomes Chinese Premier Wen Jiabao (right) upon his arrival at Wattay International Airport yesterday. -Photo Khamphan

ceremony. The US\$7 billion railway from the Chinese border to Vientiane. Ms Bu said the Chinese side hopes Mr Wen's visit will enhance the friendship, comprehensive strategic cooperative partnership, and mutual trust between the two countries.

【拙訳】

中国首相ラオスに到着 公式訪問 ASEM 参加へ

昨日、中国首相温家宝はアジアヨーロッパ首脳会議に本日と明日に出席のため公式訪問でラオスに到着した。

温家宝首相はラオス首相 Thongsing Thammavong 首相の招きに応じて公式に訪れたものである。かれの到着と同時に Thongsing 氏とラオスの高官が温首相を公式セレモニーで歓迎した。温家宝氏は Choummaly Sayasone 大統領を訪問し、Thongsing 首相と二国間会議に参加する。先週、駐ラオス中国大使 Ms. Bu Jianguo 氏は次のように語っていた。ラオスと中国首相は両国間の包括的な協力関係を強化することについて見解を交わし、相互の関心ごとについて議論されるだろう。

両者は経済協力に関するいくつかの合意文書に署名するだろうことは確かである。本日、両首相は中国の資本による720万US\$のASEM首脳会議が開かれるコンベンションセンターの譲渡式に出席する。そのあと、両者はラオス-中国鉄道プロジェクトの起工式に出席する。

7億US\$がChinesse Exim Bankから借款が供与されることが期待できる。中国国境からピエンチャンに至る鉄道である。Ms. Bu氏は次のように言っている。中国側としては、温家宝首相の今回の訪問は包括的で戦略的な相互協力関係を増進させ、二国間の関心ごとについての信頼関係を増高させるものであることに期待している。



# Aircraft parking apron, VIP Hall handed over

Times Reporters

The government of Japan yesterday handed over the Japan-funded aircraft parking apron and VIP Hall at Wattay International Airport to the Lao government.

Prime Minister Thongsing Thammavong and his Japanese counterpart Yoshihiko Noda cut a ribbon at the handover ceremony at the airport to officially present the two newly-built facilities to the Lao government.

Mr Noda is paying an official visit to Laos from November 4-7 in response to an invitation from Mr Thongsing. The Japanese Prime Minister and his delegation will also attend the 9th Asia-Europe Meeting Summit taking place in Vientiane today and

tomorrow.

The Project for Expansion of Wattay International Airport saw the construction of a 78,000-square-metre aircraft parking apron worth 1.935 billion yen (about US\$23.5 million), which was financed through Official Development Assistance from the government of Japan.

The project, implemented by the Japan International Cooperation Agency (JICA), aims to improve safety and strengthen security at the gateway airport to Laos, as well as prepare for the increasing demand for air traffic, reported a press release from the Japanese embassy to Laos and the JICA Laos Office.

The project is also providing security equipment and fire fighting vehicles in compliance

with the requirements of the International Civil Aviation Organisation. The equipment includes X-ray inspection devices, a metal detector, explosive trade detector, an ARFF vehicle, rescue vehicles and other items, the press release said.

Responding to a request from the Lao government, the Consortium of Nippon Koei Company, Azusa Sekkei Company and Hazama Corporation - the three companies responsible for designing, supervising and constructing the facility - completed construction in time to facilitate aircraft parking for leaders and delegates attending the ASEM Summit.

The expansion of the aircraft parking apron provides

CONTINUED PAGE 3

## Aircraft parking apron...

FROM PAGE 1



Prime Minister Thongsing Thammavong (right) and his Japanese counterpart Yoshihiko Noda (left) cut a ribbon at the handover ceremony at Wattay International Airport yesterday. --Photo Khamphan

sufficient capacity for larger aircraft to park and enables the airport to handle the logistics requirements for the summit.

"The Japanese government hopes this project will

contribute to the success of the ASEM Summit and the further economic development of Laos," the press release said.

A new VIP Hall, built under the Counterpart Fund of the

Japanese Non-Project Grant Aid 2010, was also handed over on the same occasion.

After the ceremony, the two prime ministers held a bilateral meeting.

設計、この三社の合併企業はこの施設の設計、施工、施工管理に責任を負い、各国の指導者、デレゲーションの専用航空機が ASEM 参加に乗り入れるのに間に合わせてくれた。航空機駐機場場の拡張は大型の航空機の駐機に充分の広さがあり、首脳会議の為に増加する輸送需要を空港が扱えるようになった。日本政府はこの建設プロジェクトが ASEM 首脳会議の成功に貢献し、将来のラオスの経済発展にも貢献することを期待している。2010年の同じ資金によって建設された VIP ホールも同じく譲渡された。この譲渡式の後、二人の首相は二国間会議に臨んだ。

【拙訳】

航空地の駐機場、VIP ホールが譲渡された。

日本政府は、昨日、ワットタイ国際空港の日本資金による航空機駐機場と VIP ホールをラオ政府に譲渡した。Thongsing Thammavong 首相と野田ヨシヒコ首相は空港でリボンに鋏を入れ、公式に2つの施設をラオス政府にプレゼントした。野田氏は THONGSING 氏の招待に応じ、11月4日から7日までラオスを公式訪問している。日本首相とそのデレゲーションは第9回アジアヨーロッパ首脳会議に参加するため本日より、ビエンチャンに滞在している。ワットタイ国際空港の拡張プロジェクトは7.8haの航空機駐機場1億9千350万円(2千350万US\$)である。資金は日本政府のODAから供給された。JICAが建設を実施したこの施設はラオスへの玄関口の安全性を高め、セキュリティを強化するものである。同時に、航空輸送の需要の増加に備えるものである。と日本大使館がJICAのラオス事務所とラオス政府にプレスリリースした。

また、国際市民航空機構の要請に応じて、セキュリティ機器と消防自動車を整備したものです。また、プレスリリースでは次のようにも言っている。「機器にはX線検査機、金属探知機、爆発物検査機、ARFF車両、レスキュー車両、他を含んでいる。」

ラオス政府の要請に応じて、日本工営会社、ハザマ、アズマ